

館報

Mar. 2006

No. 57

The Yokohama National University Library Bulletin

目次

経済学におけるAcademic Journalの研究（下地 誠）	1
「河底文庫」について	3
一つの資料から（河底 尚吾）	4
平成17年度横浜国立大学附属図書館利用者アンケート調査第1次集計結果	5
平成17年度購入主要コレクション等	7
図書館に関する会議・主要日誌・職員の動向	8

経済学におけるAcademic Journalの研究

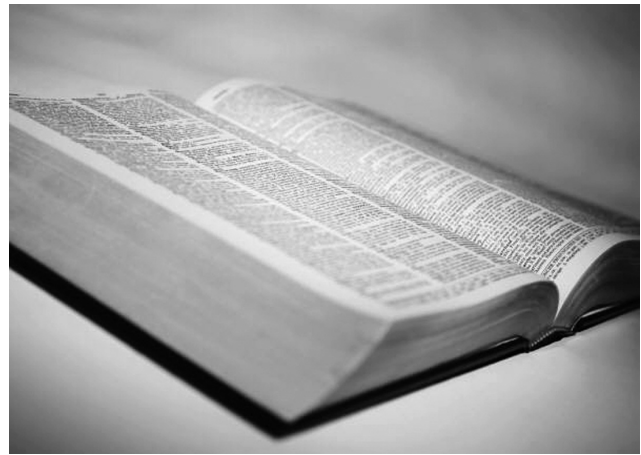
下地 誠

大学という場所では、自分と同じ専門分野にいる人のみならず、自身は全く門外漢である分野の専門家と交流を持つ事が可能です。それらの人との何気ない会話から自身の研究へのヒントを得る事もあるでしょうし、単に知識を広めるという意味での効用も無視できません。そのような交流のなかで日頃僕が面白いと感じているのは、異なる分野間や、場合によっては近い専門分野にいる研究者間ですら、完全に一致した研究成果の評価方法を持っていないという事です。ある分野では本の出版が重要でしょうし、別の分野ではむしろacademic journal（以下、ジャーナル）等への論文掲載が重要であると考えられるかもしれません。あるいは、全く別の形での研究成果が要求される分野も存在するでしょう。そういうことを考えると、自身の分野の尺度を他の分野に安易に当てはめて考えてしまうのは危険なことに思えます。

僕自身がいる分野では、一般的にジャーナルへの投稿が自身の仕事を発表する手段として用いられています（もちろん、本の出版等、他の成果が評価されないというわけではありません）。しかも、その「手段」であるジャーナル自体も実は経済学においては研究の対象となっています。以下では、そのような研究をいくつか紹介したいと思います。これらは他の分野では単純に扱いにくいトピックであるかもしれません。ただし、

その方法自体は他でも十分応用可能なものなので、近いうちに同様の研究が他の分野に応用されるかもしれません。

どのような分野でも一つの論文に複数の著者が名を連ねる事は珍しくないと思います。例えば、生物学の分野では経済学以上に共著論文が多い事のみならず、共著論文における共著者の数が多い事がLaband and Tollison (“Intellectual Collaboration,” Journal of Political Economy, 2000, 108 (3), 632-662) によって示されています。生物学を専攻する私の友人によると、少なくとも生物学の分野においては、論文への貢献度が著者のリストの順番に反映されるとの事です。



それが事実であれば、この貢献度を「客観的にはかる」という作業は、僕のようなnaiveな人間には胃が痛くなる事に見えて仕方ありません。グループの中での交渉の結果としてメンバー間の衝突が発生する可能性があるのみならず、その結果がそれぞれのメンバーのアカデミックな成功にも影響を与えるわけですから。もちろん、経済学の分野でも複数の著者による論文は珍しくありません。ただし、経済学の分野にいる限り、著者リストの名前の順序を決めるために胃が痛くなる事は殆どありません。なぜなら、複数の著者がいる場合、よほどの事が無い限りアルファベット順に名前(名字)を並べるからです。

これは「A」で始まる名前の方が「Z」で始まる名前の人より貢献度が高いからではありません。Engers, Gans, Grant, and King “First Author Conditions,” *Journal of Political Economy*, 1999, 107 (4), 859-883によると、このアルファベット順による名前のリストも単に「均衡」であるのです。(この均衡の技術的な解説は割愛しますが) その場合、論文の名前の順序から相対的な貢献度を計る事が結果として困難となることは理解して頂けると思います。しかし実際に我々は名前の順序に関して完全に無関心でいるのでしょうか? Einav and Yariv “What's in a Surname? The Effects of Surname Initials on Academic Success,” *Journal of Economic Perspectives*, forthcomingによると、少なくとも労働市場はそこまで無関心ではないようです。データを用いた彼らの結果によると、米国内での経済学の分野での成功は名字のイニシャルとも関係しているようです(どう関係あるかを知りたい方は是非、彼らの論文を読んでください)。この事実はアルファベット順に名前をリストする慣習に依存しているようである、とも述べられています。

NatureやScience等、日常のニュースにすら登場するジャーナルは、アカデミックな重要度も大きいのだろうというくらいは門外漢の僕でも想像できます。しかし、殆どのジャーナルについての評価(重要度)については、その分野にいない限り理解することは困難でしょう。ジャーナルの評価については分野を問わずその中でのある程度のコンセンサスがあるはずで、経済学もその例から漏れる事はありません。事実、過去にはジャーナルのランキングを扱った論文が幾つか発表されています。最近ではPalacios-Huerta and Volij “The Measurement of Intellectual Influence,” 2004, *Econometrica*, 72 (3), 963-977によって「最

新の」ランキングが発表されました。従来の評価方法の(科学的)根拠の欠如を補うべく、彼らは評価方法に対して幾つかのpropertiesを要求するというアプローチを取っています。ランキングの結果自体も興味深いのですが、彼らが示した「トップ6のジャーナルで全てのインパクトの半分を占めている」という結果も見逃す事ができません。このようなトップジャーナルの圧倒的な優勢は他の分野でも顕著なのでしょうか、興味深いところです。

近年のインターネットの発展のおかげでジャーナルのオンライン化が進み、研究室にいて必要な論文を瞬時にダウンロードする事が可能になりました。殆どのジャーナルは冊子体でもオンラインでも読む事が可能で、私たちの研究環境は大きく変わってきました。しかしながら、近年のジャーナル価格はかなりの高騰を経験しており、この状態が続けば多くの大学図書館で予算の逼迫が起こってくるのではないのでしょうか。この価格高騰について、少なくない数の経済学者が問題提起をしているようです。

その中でもいち早く反応したのがUC Santa BarbaraのBergstrom教授です。彼の論文“Free Labor for Costly Journals?” 2001, *Journal of Economic Perspective*, 15 (3), 183-198において、非営利ジャーナルとcommercial publisherの購読コストの差について議論し、それについての対抗策を提示しています。例えば、非営利ジャーナルの更なる拡張や、ウェブ・ジャーナルへのサポートです。実際、ウェブ・ジャーナルが近年幾つか誕生しています。これらのウェブ・ジャーナルの評価が上がれば、今後のジャーナルの出版形態にも少なからず影響を与える事になるでしょう。

と、ここまで読んで、ステレオタイプな経済学と上で挙げた論文のトピックとのギャップに違和感を覚えている方もいるのではないのでしょうか? 「GNP」「インフレーション」「雇用」というようなトピックを扱う「王道の」経済学とは異なる分野、特にトピック自体が大きく広がっているのみならず、むしろその分析道具を扱うことを専門としている研究者も少なくありません。4月から「道具としての経済学」というタイトルの教養科目を経済学部にて提供します。その中では、分析道具としての経済学に焦点を当てて講義をします。そのような学問にも興味のある方は是非受講してください!

(しもじ まこと 国際社会科学研究所助教)

「河底文庫」について

昨平成17年1月と9月に、本学名誉教授河底尚吾先生から御蔵書の寄贈を受けました。第1回分の内容は後掲の一覧にある通りですが、約70冊あります。第2回分はざっと約1,000冊です。大変貴重な文献ばかりで、中には稀覯と呼ぶべき書籍や資料を含んでいるため、附属図書館ではこれらを「河底文庫」として保存することにいたしました。このあとの河底名誉教授の言葉と第1回分寄贈書一覧を御一読ください。

河底尚吾先生寄贈資料一覧 (第1回分)

- 『アイスキュロス全集』 AESCHYLI TRAGOEDIAE
ハーグ協会 ベテル・ゴス親族商会発行 1745 総革表紙 第1巻553頁 第2巻584頁
- 『エウリーピデース全集』 ΕΥΡΥΠΙΔΟΥ ΤΑ ΣΩΖΟΜΕΝΑ/Samuel Musgrave
オクスフォード刊 1778 総革表紙 第1巻510頁 第2巻423頁 第3巻607+14頁 第4巻612頁
- 『アリストパネース全集』 ARISTOPHANIS COMOEDIAE, CUM SCHOLIIS ET VARIETATE LECTIIONIS
/Immanuel Bekker校閲 S. ウィティカー, トレチャー, アーノット社 1829 5巻 (texts 4巻、notes 1巻)
- 『アリストパネース喜劇全集』 ARISTOPHANIS COMOEDIAE UNDECIM, GRAECE ET LATINE
1760 総革表紙 第1巻683頁 第2巻577頁
- 『アリストパネースの新SCHOLIA』 SCRIPTA ACADEMICA GRONINGANA. SCHOLIA IN ARISTOPHANEM
Swets & Zeitlinger 1962 クロス表紙 5巻
- 『アリストパネース全集』 ARISTOFANE / Victor Coulon校訂 Hilaire van Daele仏訳
Société d'Édition Les Belles Lettres 1967 5巻
- 『アリストパネース全集注解』 ARISTOPHANIS COMICI QUAE SUPERSUNT OPERA
Halis Saxonum in Orphanotrophei Libraria 1886 2巻 背革クロス
- 『アリストパネース喜劇全集』 ARISTOFANE-LE COMMEDIE/R. Cantarella 校訂、校注
Milano 1953 5巻
- 『新神話事典』 NOUVELLE MYTHOLOGIE ILLUSTRÉE
L'Édition d'Art et de Vulgarisation 第1巻390頁 第2巻410頁
- 『新ギリシア言語学研究』 ÉTUDES DE LINGUISTIQUE NEO-HELLENIQUE/Hubert Pernot著
1907 第1巻561頁 第2巻423頁 第3巻603頁
- 『ドストエフスキー全集』 Ф. М. ДОСТОЕВСКИЙ «Наука»
ナウカ版 1972 17巻
- 『臨時台湾旧慣調査会第一部蕃族習慣調査報告書』 台湾総督府蕃族調査会編 1921 8巻
- 『台湾宗教と迷信陋習』 曾景來著 台湾宗教研究会 1938
- 『高砂族の祭儀生活』 古野清人著 三省堂 1945
- 『大和村建設誌』 郡茂徳編 大和村建設信用組合 1942
- 『台湾の蕃族』 藤崎濟之助著 国史刊行会 1936
- 『台湾の蕃族研究』 鈴木作太郎著 台湾史籍刊行会 1932
- 『蕃地事情』 台湾総督府警務局理蕃課 1933
- 『撫蕃ニ関スル意見書・蕃童教育意見書』 台湾総督府民政部蕃務本署 1914
- 『高砂族の教育』 台湾総督府警務局 1941
- 『台湾匪乱小史』 台湾総督府法務部編纂 1920

一つの資料から

河底尚吾

このたび横浜国立大学図書館に西洋古典を中心とする私蔵の図書資料が受納されることになり、蔵書にとっても私自身にとってもこれほど喜ばしく光栄なことではなく、ひとしお感銘深いものを覚えます。同時に山下正毅図書館長をはじめ関係各位の皆さまのご尽力とご理解をいただきましたことに、心から感謝申しあげる次第です。

研究者が資料を集めるのは当然のこととされますが、これがなかなか大変な仕事なんです。まず資料の価値を見抜く力がなくてはならない。これは研究者の生命を左右するものです。その力がそなわるには20年、30年、ばあいによっては40年、50年の年月を必要とすることはまれではありません。かりにその力があつたとしても、ほんとうにお目当ての資料にめぐりあえるかどうかが問題です。資料（data）とは、文字どおり「与えられるもの」ですから。それに言うまでもなくそれに要する代価。これらの要素が過不足なくすべてそなわってこそ理想的な研究がすすめられるのではないかと思います。

さらにその資料の内容が重要です。自然科学分野の研究ならば、資料はできるかぎりあたらしいもの、先端的なものを求めて探索するのですが、私のように古代古典関係の分野では、新しさがリアルタイムとは逆になります。世に出る資料が古ければ古いほど最新のものであり、何百年、何千年前のパピュルスや土器に書かれた文字や画像が新資料といわれるのですからおかしなものです。その好例が「ホメロス問題」でしょう。

だれでも知っている叙事詩文学の元祖ホメロスは紀元前8世紀の詩人と言われますが、この人は実は目が見えなくて、長い詩をそらんじて人びとに聴かせたということです。どれほど長いかというと、『イリアス』が15,693行、『オデュッセイア』が12,110行で、二つ合わせると岩波文庫5冊分に相当します。その長編叙事詩をめぐって、近代の研究者たちがさまざまな解釈をこころみています。それがおもしろい、と言っては失礼ですが、そのどれもが人知の奥行きを垣間見せてくれる説なのです。なにしろそのころは今日のCDやDVDはもちろん文字もほとんど通用しない時代なので、記憶はもっぱら耳と口にたよるしかありません。ところがホメロスは記憶の達人でした。そこが問題の発端です。いくら記憶力がすぐれているといっても限界があるし、まして全編をヘクサメトロスという韻律によってがんじがらめに縛られた叙事詩を、一人の人間が文

字の助けなしに寸分違わず誦うことができるだろうか、という疑問が生じます。その疑問を最初に投げかけたのは、ドイツのヴォルフという古典学者でした（Prolegomena ad Homerum, 1795）。

彼の説によると、そもそもホメロス作と言われる作品は、もとをただせば、永い間ギリシア各地で誦い継がれてきたのを、独裁政治家として有名なペイシストラトスが、前6世紀半ばごろに、それらを一つにまとめて文字で記録させた。これが今日ホメロスの叙事詩として残っている種本だと言うのです。しかもその後、数多くの写本異本があわれ、また四散しました。前2世紀のアレクサンドレイア時代になって、パピュルスに記録されたものが羊皮紙に書きこまれるようになり、ホメロス作品もアリストアルコスを中心とする文献学者たちによって一つにまとめられ、さらにその後、さまざまな改竄の手が加えられて現存する形になったというのがヴォルフの主張です。だから、この作品はその核の部分の短い詩はホメロスの作かもしれないが、ほかにいろいろな複数の人の手が加えられているので、単独作者によるものではないというわけです。

ところが、それから40年ほど後に、これに輪をかけたような説をラハマンという言語学者が主張します（Betrachtungen über Homers Ilias, 1837）。この長編詩を分析吟味してみると、さまざまな点で話の筋の前後矛盾やら言語使用の不合理さが目につく。これは各地方で歌われていた民謡詩の集合体の結果だということです。つまりホメロスという一詩人の存在を否定したわけです。これはすぐさま反対の声があがりました。

たしかに多くの人の手が加えられているし、武具や衣装の表現に時代錯誤もある。しかし多様な事件の展開があるにもかかわらず、全編の筋は一貫していること、いわゆる起承転結が見られるというのはそれをまとめた人物が存在する証拠であって、それがホメロスであるというのがレールスやミューラ、あるいはパリらの主張する単一説です。現在ではこの説が有力ですが、先ほど私がおもしろいと言ったのは、ホメロスという詩人を認めるこの単一説に対してだけでなく、複数説や否定説をひくくめた人間の豊かな推理想像の可能性が、資料を通じて浮かびあがってくるのをすばらしいと思うからです。

こういう可能性は今回の寄贈図書のどれをとってみても秘められている気がします。

（かわそこ しょうご 名誉教授）

平成17年度横浜国立大学附属図書館利用者アンケート調査 第1次集計結果

I 実施内容

目的：自己点検・評価活動の一環として、今後の図書館サービスの改善と向上に役立てるために、利用者の意見を聴くことを目的としてアンケートを実施した。

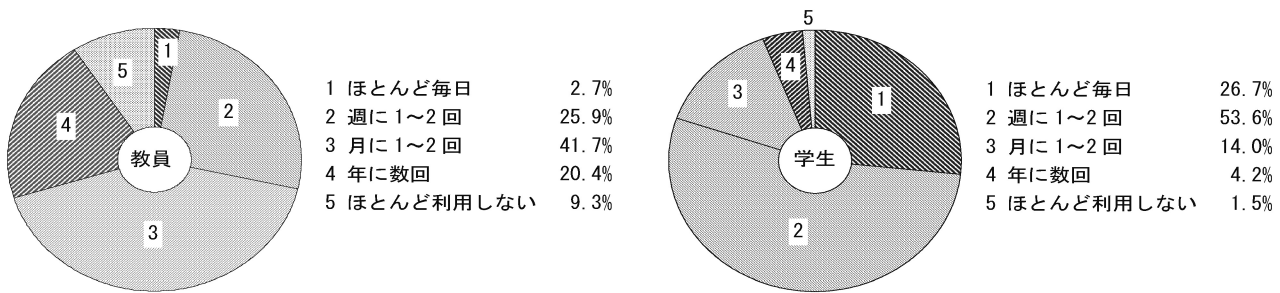
調査期間：平成17年11月15日（火）～11月17日（木）

調査対象：本学の常勤教員及び学生

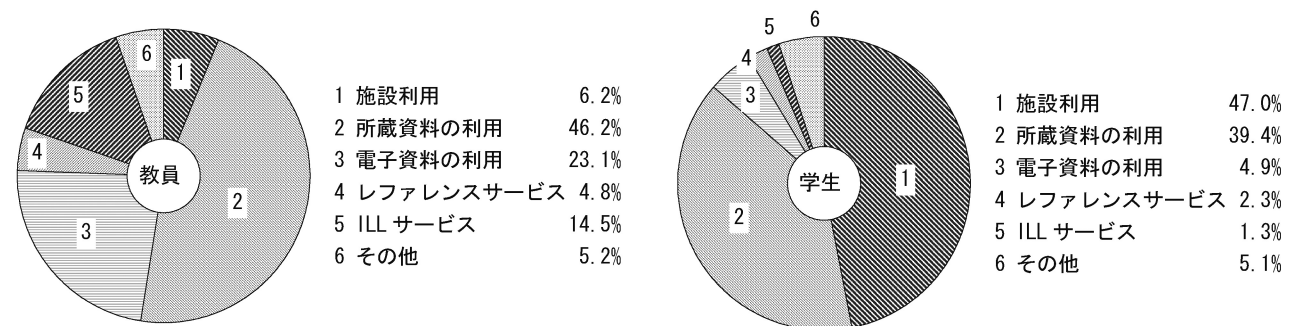
有効回答数：1159件（教員112件・学生1,047件）

II 主な回答結果

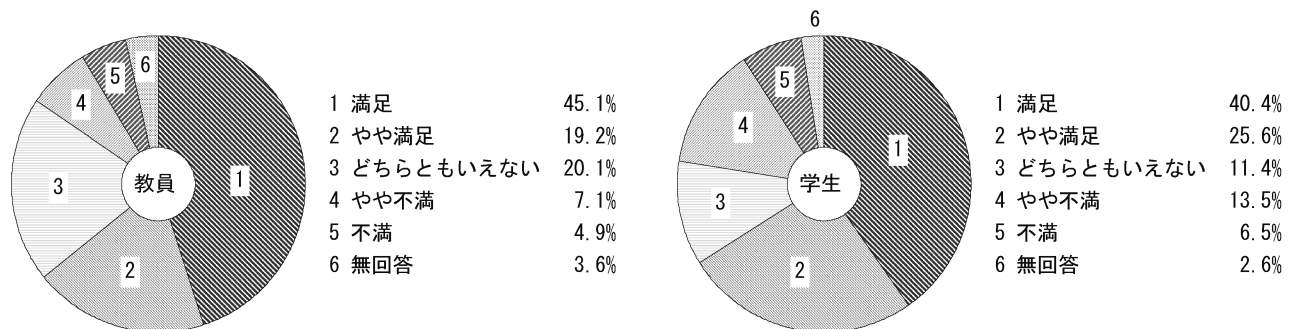
1. 利用頻度



2. 利用目的



3. 開館状況について

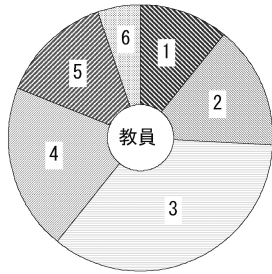


【主な不満の理由】

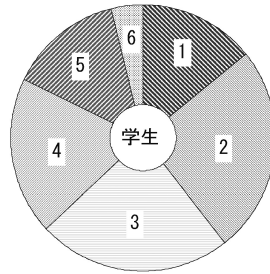
教員…深夜も使いたい、短縮開館が非常に不便。

学生…土日遅くまでやってほしい、夏休みの土日開館してほしい、閉館時間が早過ぎる、もっと早くから開けてほしい。

4. 蔵書について



満足度	割合
1 満足	10.7%
2 やや満足	15.2%
3 どちらともいえない	34.8%
4 やや不満	20.5%
5 不満	13.4%
6 無回答	5.4%

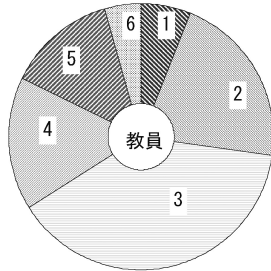


満足度	割合
1 満足	14.2%
2 やや満足	25.3%
3 どちらともいえない	23.5%
4 やや不満	19.3%
5 不満	13.8%
6 無回答	3.9%

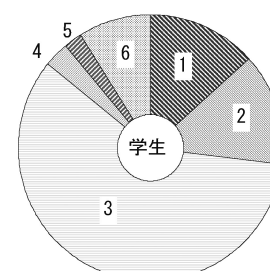
【主な不満の理由】

教員…新しい本が少ない、教科書レベルの図書は新品が複数冊欲しい、専門的な本は相当欠けている、蔵書が少なすぎる。
 学生…新しい本が少ない、専門的な本が少ない、文庫・新書が皆無、見たい本が教員の研究室にあることが多い。

5. 電子ジャーナル・オンラインデータベースについて



満足度	割合
1 満足	6.2%
2 やや満足	21.0%
3 どちらともいえない	38.8%
4 やや不満	16.1%
5 不満	13.4%
6 無回答	4.5%

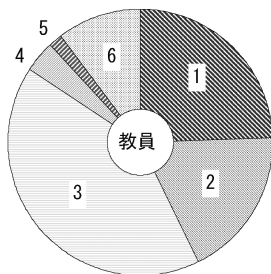


満足度	割合
1 満足	13.3%
2 やや満足	13.6%
3 どちらともいえない	58.9%
4 やや不満	3.2%
5 不満	2.0%
6 無回答	9.0%

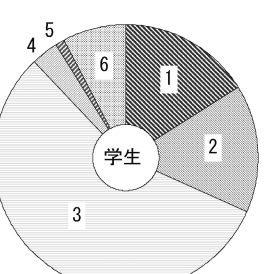
【主な不満の理由】

教員…基盤となる情報であり充実が必要、このままでは他大学との競争に勝てない、主要学術誌がそろっていない、十分なデータベースがない、重要な雑誌にアクセスできない、少なすぎる、全文を閲覧できるジャーナルが少ない、ダウンロードできる雑誌が少ない、使いやすいWeb of Scienceが導入されていない、なにに等しい、被引用回数や文献検索を可能なシステムが必要、必要なタイトルが利用できない。
 学生…数が少なく研究に支障あり、種類が少なすぎる、ダウンロードできないものばかり、使えるものを増やしてほしい、便利ではあるが広報が充分でないように思う、もっと欲しい、読めない文献が多い、読めるものが少なすぎる。

6. レファレンスサービス・ILLサービスについて



満足度	割合
1 満足	24.4%
2 やや満足	18.4%
3 どちらともいえない	41.4%
4 やや不満	3.9%
5 不満	1.5%
6 無回答	10.4%

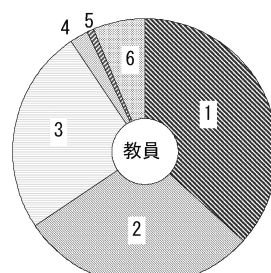


満足度	割合
1 満足	16.2%
2 やや満足	15.5%
3 どちらともいえない	56.1%
4 やや不満	3.4%
5 不満	1.1%
6 無回答	7.7%

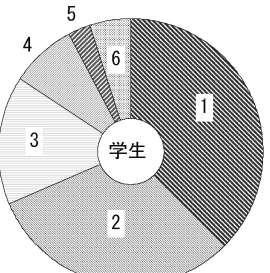
【主な不満の理由】

教員…笑顔で熱心に相談にのってくれない、素養のない人が多い、つめたい、夜間の学生が相談できるようにしてほしい。
 学生…親切でない、文献の探し方にくわしい人が少ない、レファレンスデスクの閉店が早い、わかりづらい。

7. 館内環境について



満足度	割合
1 満足	36.6%
2 やや満足	29.0%
3 どちらともいえない	25.0%
4 やや不満	2.2%
5 不満	0.9%
6 無回答	6.3%

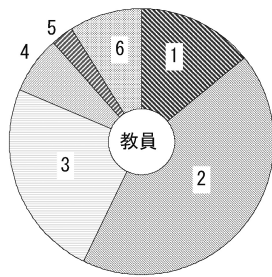


満足度	割合
1 満足	37.6%
2 やや満足	31.0%
3 どちらともいえない	15.7%
4 やや不満	7.8%
5 不満	2.8%
6 無回答	5.1%

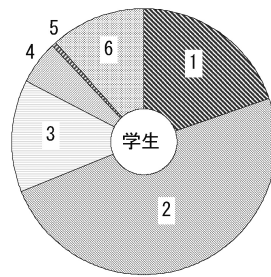
【主な不満の理由】

教員…学生の私語がひどいです、盗難が起きると聞いている。
 学生…うるさい人が多い、毎日のように盗難の放送がある。

8. 全般的な意見等



1 満足	14.3%
2 やや満足	42.9%
3 どちらともいえない	24.1%
4 やや不満	7.1%
5 不満	2.7%
6 無回答	8.9%



1 満足	19.6%
2 やや満足	49.3%
3 どちらともいえない	13.7%
4 やや不満	5.1%
5 不満	0.7%
6 無回答	11.6%

【主な不満の理由】

教員…学術情報（文献、電子ジャーナル、図書）を入手する際の利便性が決定的に劣っている、電子化の波に乗り遅れている。
 学生…とにかく蔵書数を増やして欲しい、閉館が早い。

平成17年度購入主要コレクション等

1. ウェルズリー・ヴィクトリア朝雑誌索引 1824-1900年

The Wellesley Index to Victorian Periodicals, 1824-1900. 5 vols.

英国ヴィクトリア朝時代の43の主要雑誌の索引を収録。各雑誌の出版史、内容明細なども収録し、ペンネームや匿名で書かれた記事の執筆者も特定している。記事内容の分野は、当時の思想、政治、宗教、芸術、科学等多岐にわたり、19世紀のイギリスを知るための必須のツールである。

[中央図書館2階参考図書]

2. ロシア統計年鑑

Statisticheskij Ezhgodnik Rossii. [マイクロフィルム版] Tom. 1-14, 1904-1918

マイクロフィルム 11 reels.

1904年から1918年のロシアの公式統計。

[中央図書館1階マイクロ資料室]

3. 19世紀社会思想の転換コレクション（自然科学・

進化論・功利主義）全46点

19世紀イギリスにおける社会思想の転換を、17世紀からの「世俗化」の完成という視点からの研究業績をコレクションしたもの。

[中央図書館1階書庫]

4. On Political Economy, in connexion with moral state and moral prospects of society / Chalmers, Thomas, 1832. 1 vol.

セント・アンドルーズ大学およびエディンバラ大学で道徳哲学、経済学、神学を教え、貧民の救済に尽力した、チャーメーズの「経済論：社会モラルの現状と将来に関連して」の初版本。

[中央図書館1階貴重書庫]

5. Intellectual Legacy of Management Theory: Series 4: Human Relations. 7 vols. 2004

経営学のグランド・セオリーの一つである人間関係論の代表的論文を取り纏めたシリーズ。

[中央図書館1階書庫]

図書館に関する会議

(平成17年5月1日～平成18年2月28日)

運営委員会

平成17年度第1回(平成17年5月30日)

<審議事項>

- 1) 平成17年度附属図書館運営委員会議長代理者について
- 2) 各小委員会の委員について

平成17年度第2回(平成17年7月26日)

<審議事項>

- 1) 平成16年度附属図書館決算について
- 2) 平成17年度附属図書館予算(案)について
- 3) 横浜国立大学附属図書館利用規則の一部改正について

平成17年度第3回(平成17年10月11日)

<審議事項>

- 1) 横浜国立大学附属図書館特別室使用要領の一部改正について
- 2) 卒業生等への図書館資料帯出の実施要項の一部改正について
- 3) 一般利用者への図書館資料帯出の実施要項の一部改正について
- 4) 平成18年度自然科学系外国雑誌の購入について
- 5) 平成18年度の電子ジャーナルについて
- 6) 平成17年度附属図書館利用に関するアンケート調査について

平成17年度第4回(平成18年1月20日)

<審議事項>

- 1) 平成18年度教育研究高度化経費の要求について
- 2) 学部等の平成18年度計画ワークシートの作成等について
- 3) 平成18年度に向けた事務組織改組の検討状況について
- 4) 平成18年度附属図書館開館日程について
- 5) 中央図書館カフェの防犯カメラ設置について

図書館資料選定小委員会

平成17年度第1回(平成17年6月21日)

<審議事項>

- 1) 平成17年度附属図書館図書館資料収書計画について
- 2) 平成17年度学生用図書及び教養教育図書の選定について
- 3) 平成18年度自然科学系外国雑誌の購入について

平成17年度第2回(平成17年10月27日)

<審議事項>

- 1) 平成17年度研究図書収集計画の策定について
- 2) 平成18年度電子ジャーナル購入費の予算について

情報基盤整備小委員会

平成17年度第1回(平成17年8月4日)

<審議事項>

- 1) 平成18年度の電子ジャーナルについて

平成17年度第2回(平成17年9月28日)

<審議事項>

- 1) 平成18年度の電子ジャーナルについて

平成17年度第3回(平成18年2月21日)

<審議事項>

- 1) Web of Scienceの導入について
- 2) 導入が望ましい電子ジャーナル及びデータベースについて

主要日誌

(平成17年5月1日～平成18年2月28日)

- 5.24 神奈川県内大学図書館相互協力協議会(横浜国立大学)
- 6.30 国立大学図書館協会総会(名古屋大学)
- 7.5 神奈川県図書館協会図書館評価特別委員会(神奈川県立図書館)
- 東海地区大学図書館協議会研究集会(名古屋工業大学)
- 9.29 神奈川県内大学図書館相互協力協議会(横浜国立大学)
- 9.30 神奈川県図書館協会評価特別委員会(文教大学)
- 10.5 神奈川県図書館協会大学図書館委員会(神奈川大学)
- 10.21 横浜市内大学図書館コンソーシアム委員会(神奈川大学)
- 11.25 関東地区国立大学図書館事務(部・課)長会議(群馬大学)
- 12.7 神奈川県内大学図書館相互協力協議会連絡館会議(横浜国立大学)
- 12.16 神奈川県図書館協会委員会(東海大学)
- 1.26 神奈川県図書館協会図書館評価特別委員(神奈川県立図書館)

職員の動向

(平成17年5月1日～平成18年2月28日)

転入

(8月1日付)

情報管理課図書管理係

(新採用)

青池 菜衣

情報サービス課資料サービス係

(新採用)

徳永 容子

(1月1日付)

事務部長

(山形大学附属図書館事務部長)

清水 二郎

転出

(12月31日付)

事務部長

(一橋大学附属図書館事務部長)

今川 敏男

退職

(2月28日付)

(情報管理課システム管理係)

相澤 雅帆

横浜国立大学附属図書館 館報 No. 57 平成18年3月1日

発行所 横浜国立大学附属図書館 編集 附属図書館広報委員会

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号 電話 045-339-3204

ホームページ URL=http://www.lib.ynu.ac.jp/

